

## 2 大震災などの災害への備え

- 
- (1) 備蓄や防災用具などの用意
  - (2) 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容
  - (3) 備蓄量
  - (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知
  - (5) 大規模災害時の避難生活場所
-



## 2 大震災などの災害への備え

### (1) 備蓄や防災用具などの用意

問4 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料などの備蓄や防災用具などの用意をしていますか（○は1つだけ）。

■【備蓄・買い置きあり】は前回調査から6.5ポイント増加して7割台半ば

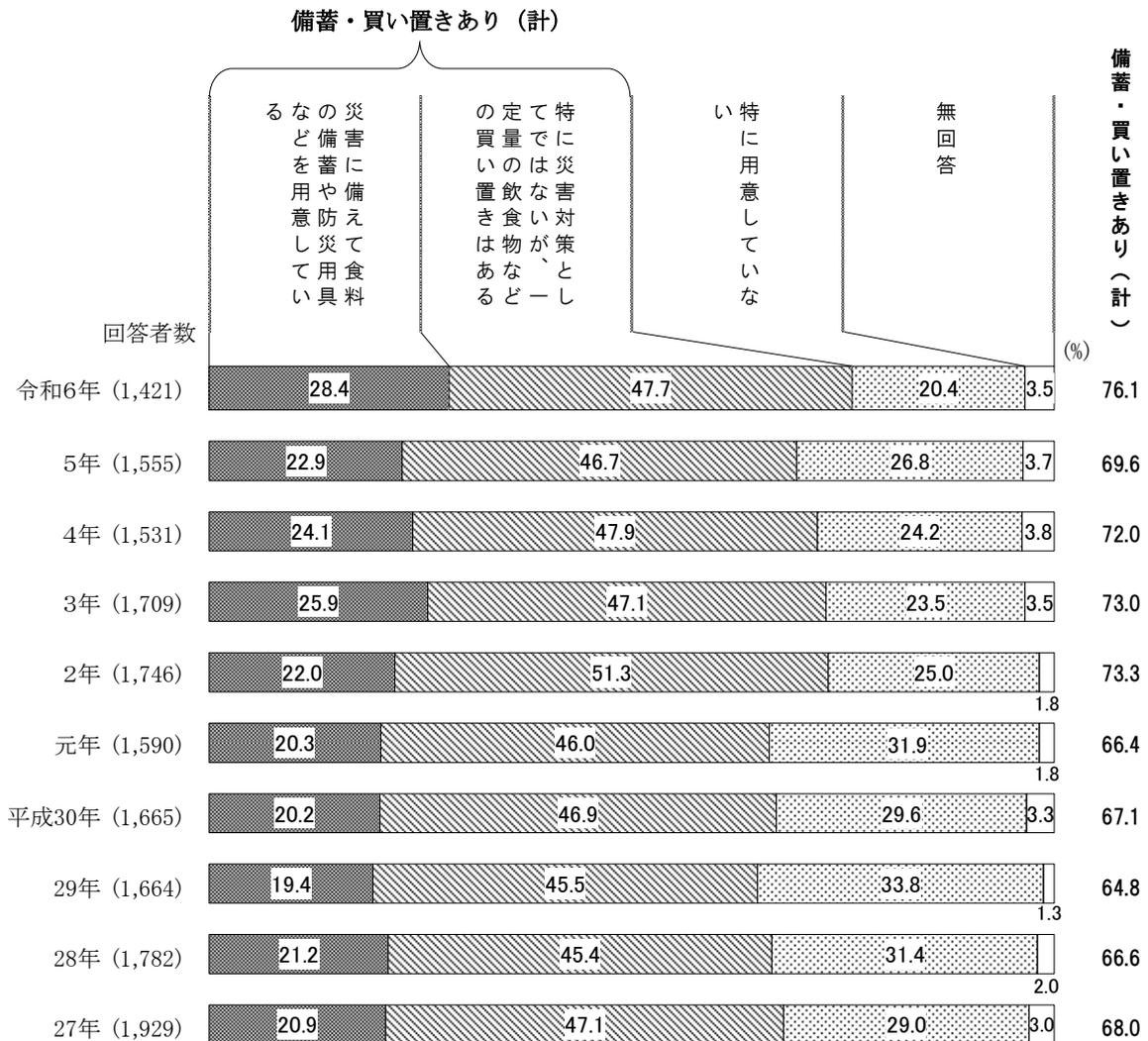
#### ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具などの用意

(ア) 災害に備えての準備状況については、「特に災害対策としてではないが、一定量の飲食物などの買い置きはある」が47.7%で最も高く、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」が28.4%となっている。これらを合わせた【備蓄・買い置きあり】は76.1%となっている。

(イ) 災害に備えて「特に用意していない」は20.4%となっている。

(ウ) 前回調査と比較すると、【備蓄・買い置きあり】は前回調査（69.6%）から6.5ポイント増加しており、過去10年間で最も高い割合となった。

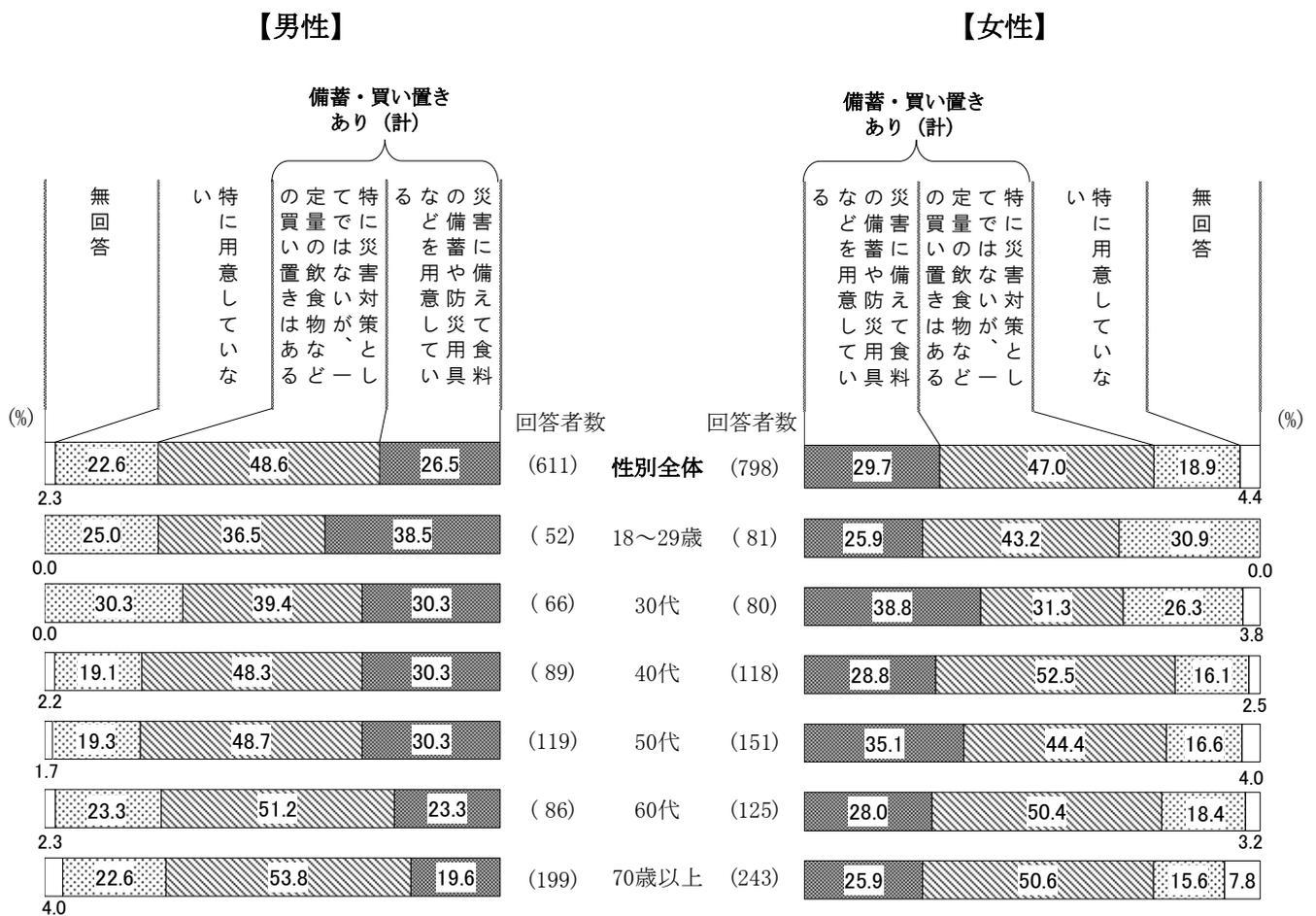
図2-1-1 経年比較／備蓄や防災用具などの用意



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 性別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は女性（76.7%）の方が男性（75.1%）より1.6ポイント高くなっている。
- (イ) 性・年代別で見ると、「災害に備えて食料の備蓄や防災用具などを用意している」は、女性の30代（38.8%）で最も高く、次いで男性の18～29歳が38.5%となっている。また【備蓄・買い置きあり】は、女性の40代が81.4%で最も高く、次いで女性の50代（79.5%）となっている。
- (ウ) 「特に用意していない」を性・年代別で見ると、女性の18～29歳が30.9%で最も高くなっている。

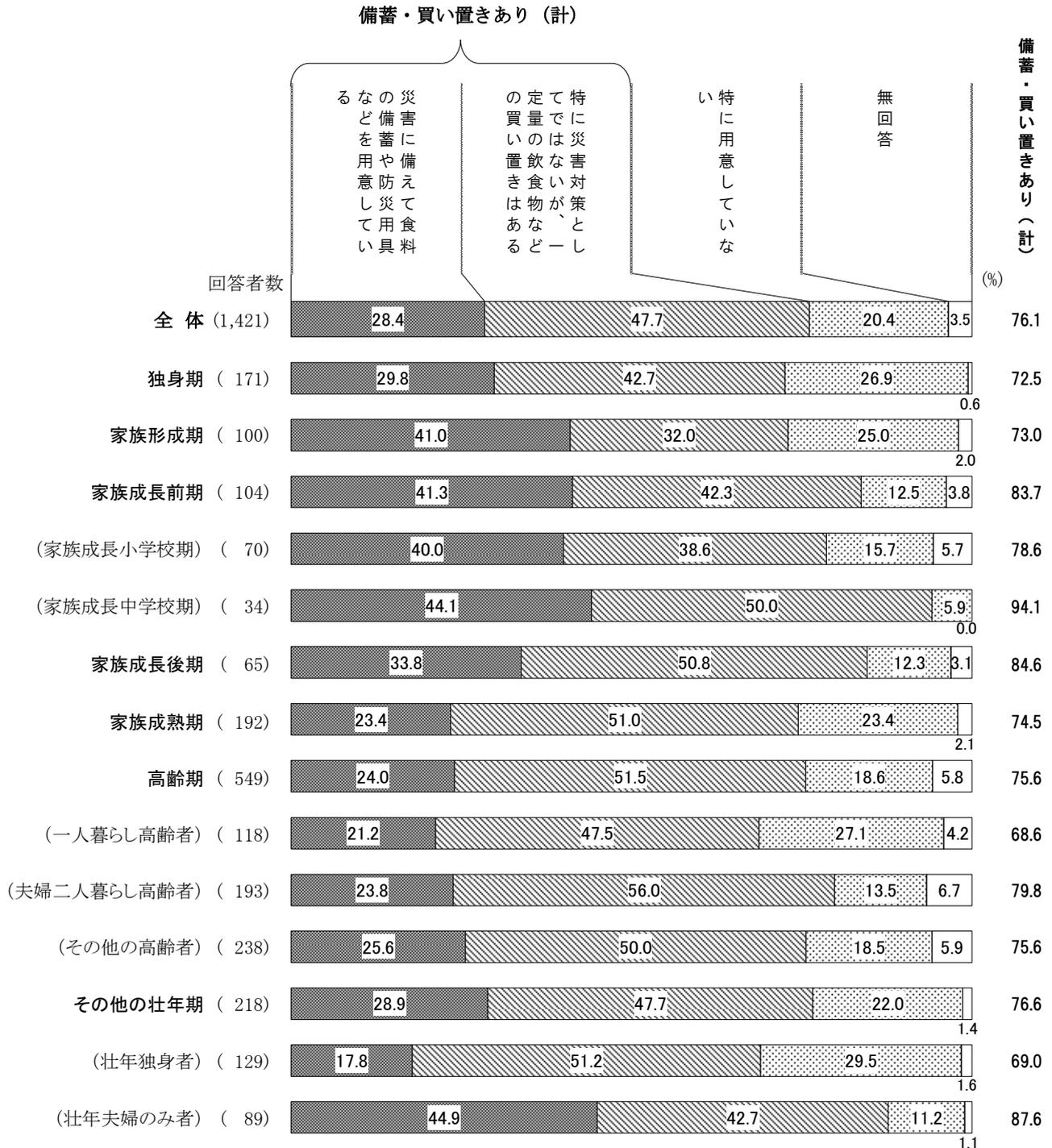
図2-1-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具などの用意



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意

ライフステージ別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈家族成長後期〉が84.6%で最も高く、次いで〈家族成長前期〉(83.7%)となっており、〈独身期〉が72.5%で最も低くなっている。なお、詳細区分で見ると、〈(家族成長中学校期)〉が94.1%で最も高く、〈(一人暮らし高齢者)〉が68.6%で最も低くなっている。

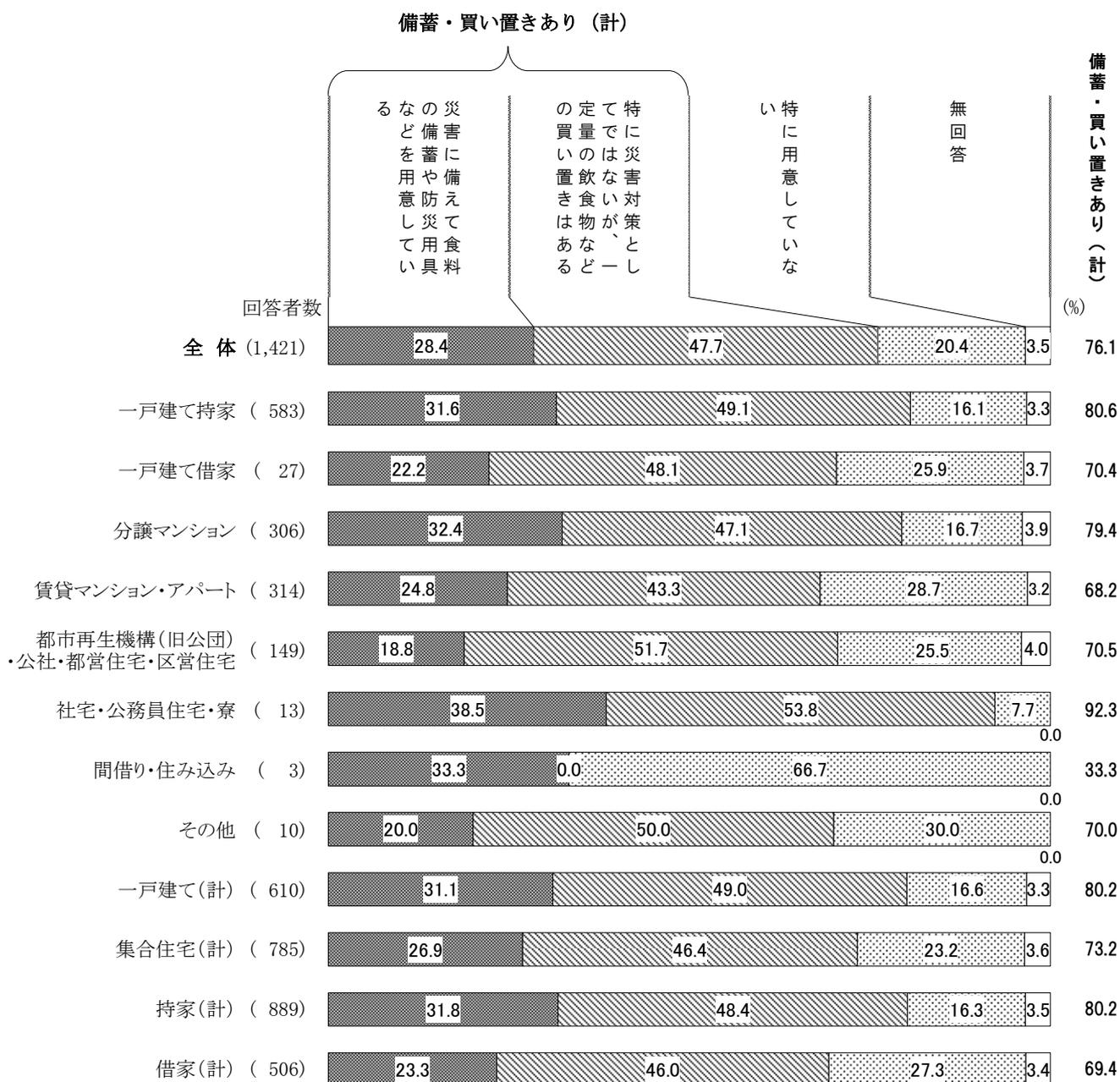
図2-1-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具などの用意



エ クロス集計・住居形態別／備蓄や防災用具などの用意

- (ア) 住居形態別で見ると、【備蓄・買い置きあり】は〈一戸建て持家〉が80.6%で最も高く、次いで〈分譲マンション〉(79.4%)となっている。一方、「特に用意していない」は〈賃貸マンション・アパート〉が28.7%で最も高くなっている。
- (イ) 住宅の戸建て集合別では、〈一戸建て（計）〉(80.2%)の方が〈集合住宅（計）〉(73.2%)より7.0ポイント高くなっている。
- (ウ) 住宅の所有形態別では、〈持家（計）〉(80.2%)の方が〈借家（計）〉(69.4%)より10.8ポイント高くなっている。

図2-1-4 住居形態別／備蓄や防災用具などの用意



※「一戸建て借家」「社宅・公務員住宅・寮」「間借り・住み込み」「その他」については、回答数が少ないため参考値。

（2）備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

問4で「1 災害に備えて～」または「2 特に災害対策としてでは～」とお答えの方に

問4-1 備蓄や防災用具、買い置きなどの内容を教えてください

（○はあてはまるものすべて）。

■ 1位「水」（9割超）、2位「食料」（9割弱）、3位「あかり」（7割台半ば）で、前回調査と同順位

ア 単純集計・経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

（ア）【備蓄・買い置きあり】の内容は、高い順に主に以下のとおりとなっている。

- ① 「水」（92.7%）
- ② 「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」（88.2%）
- ③ 「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」（73.9%）
- ④ 「簡易トイレ」（57.8%）
- ⑤ 「電池・予備バッテリー」（57.5%）

（イ）令和3年度調査以降、「水」「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」の上位3項目の順位に変更はない。

（ウ）前回調査と比較すると、「簡易トイレ」（51.7%→57.8%）が6.1ポイント、「電池・予備バッテリー」（51.6%→57.5%）が5.9ポイントと大きく増加している。

図2-2-1-① 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

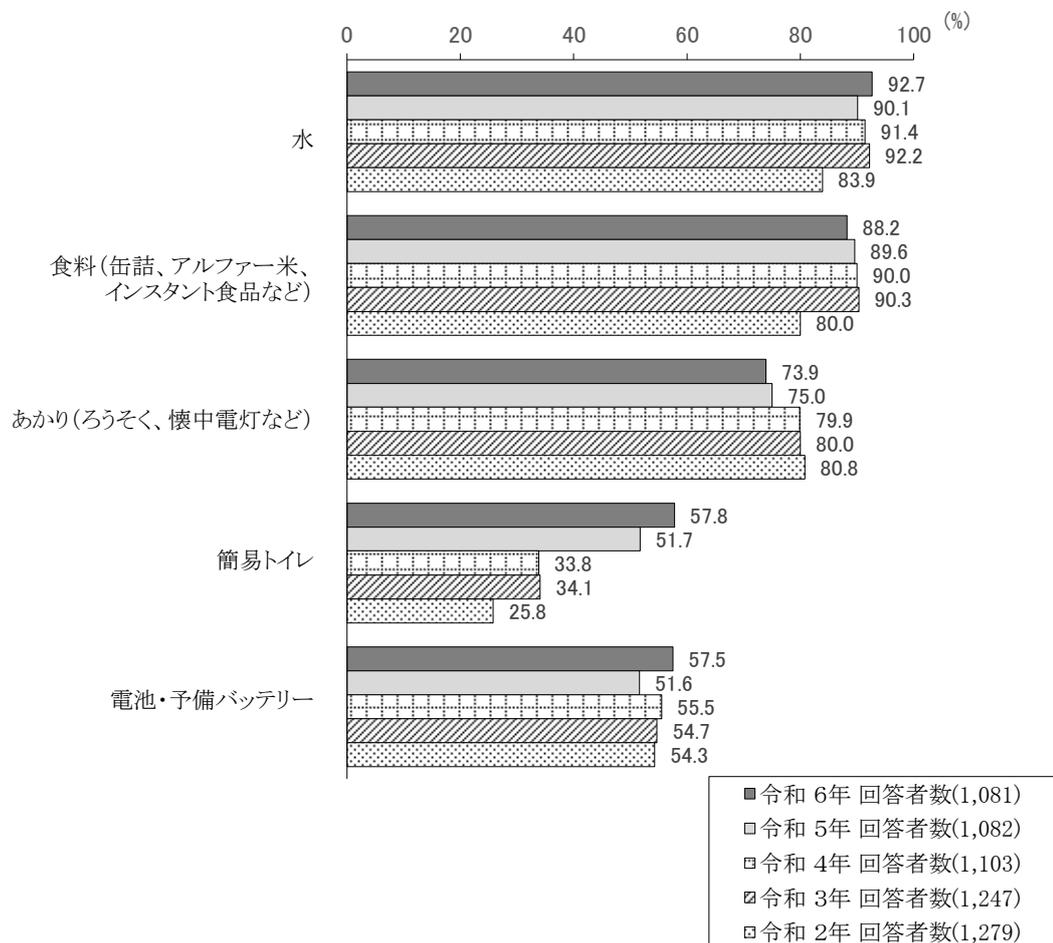


図2-2-1-② 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容

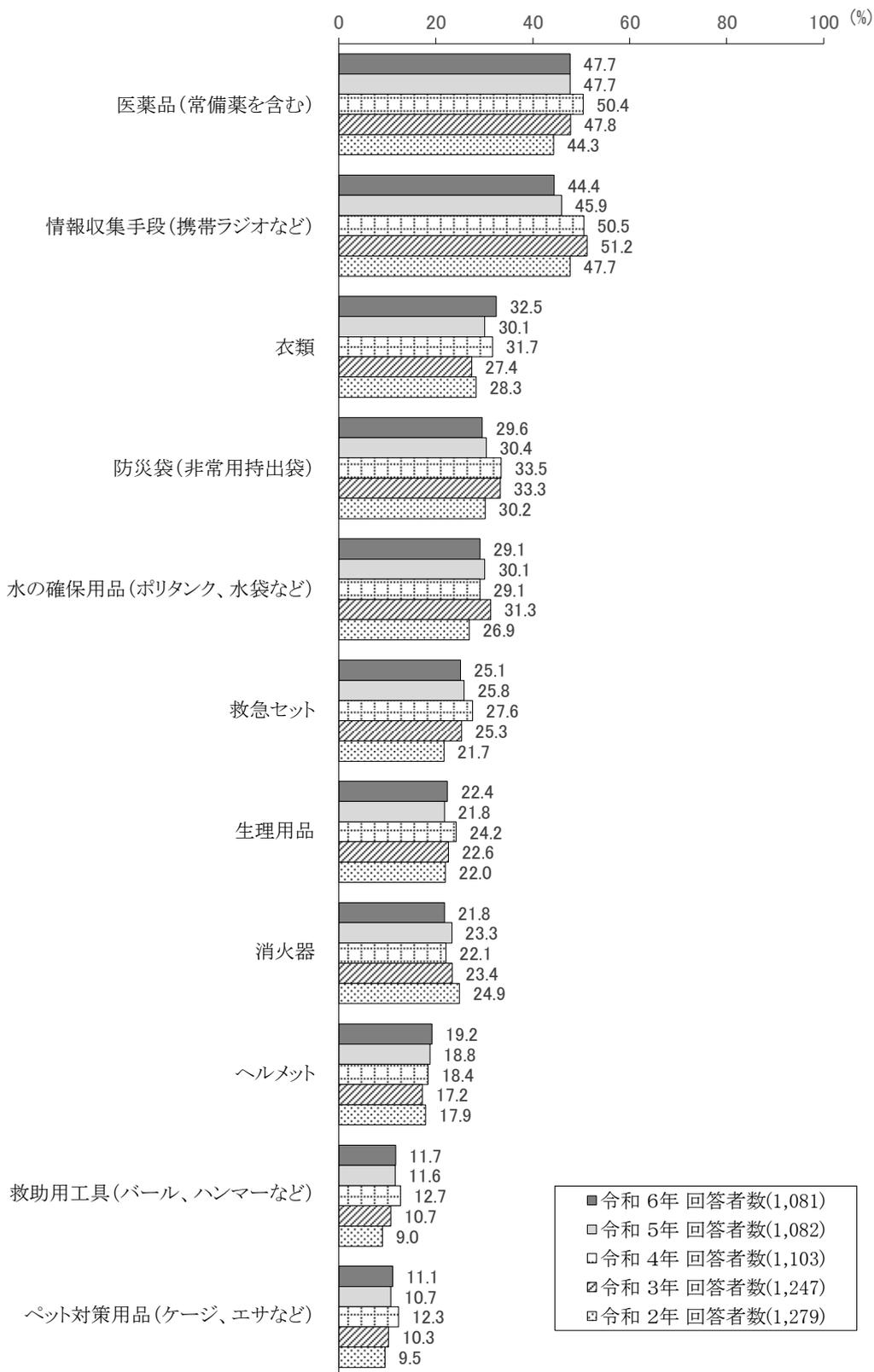
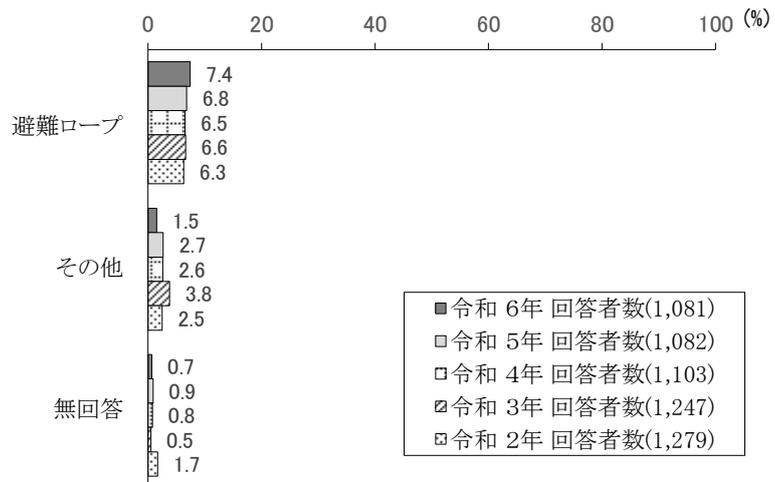


図2-2-1-③ 経年比較／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容



イ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

(ア) 性別にみたときに、男女で3ポイント以上差がある取り組み

a 男性の方が女性より3ポイント以上高い項目

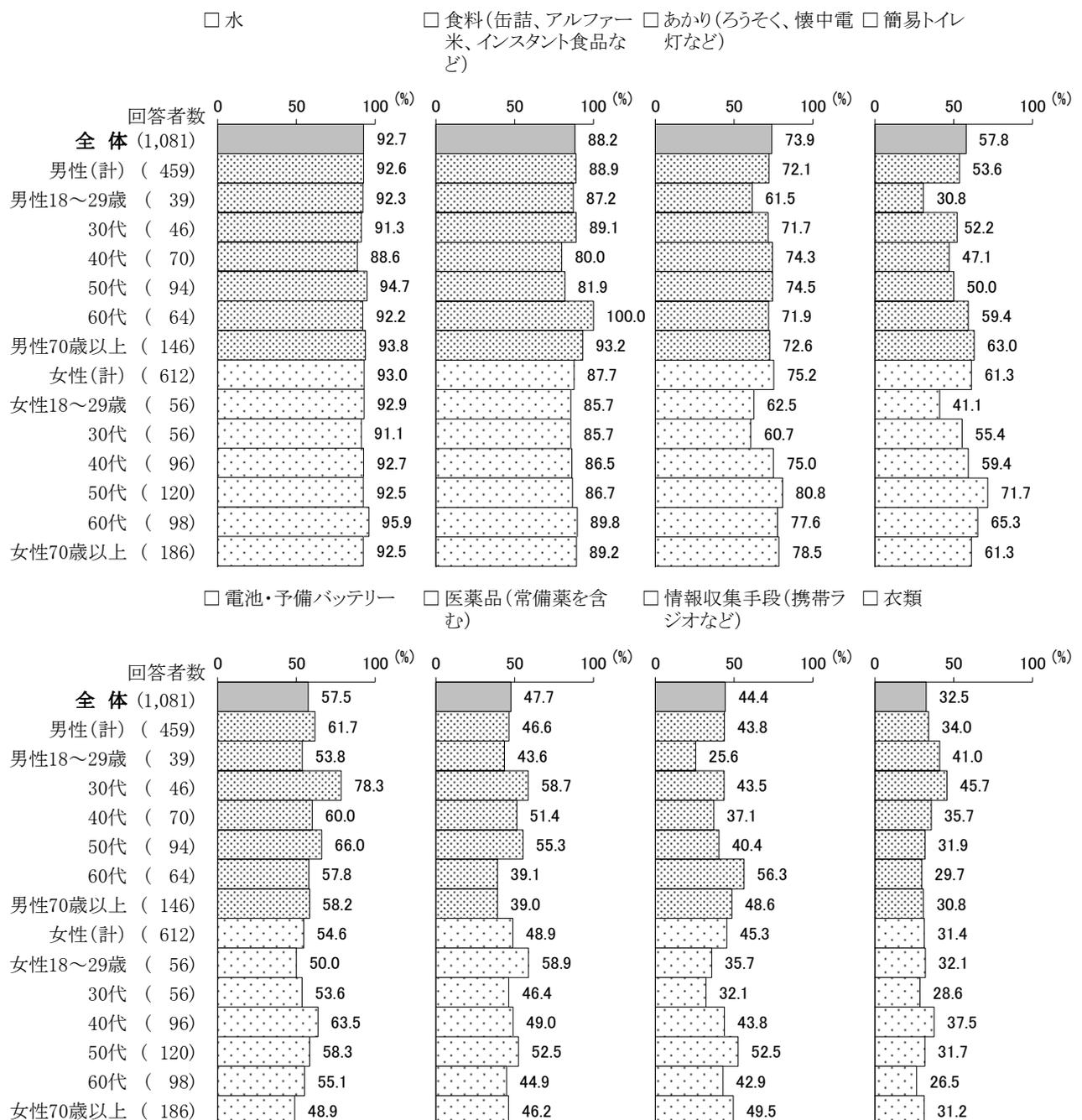
「電池・予備バッテリー」(+7.1ポイント)

b 女性の方が男性より3ポイント以上高い項目

「簡易トイレ」(+7.7ポイント)、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」(+3.1ポイント)

(イ) 性・年代別でみると、「水」は女性の60代（95.9%）が最も高く「食料（缶詰、アルファーマイ、インスタント食品など）」は男性の60代（100.0%）が最も高くなっている。また、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は女性の50代（80.8%）が最も高い一方で、女性の30代（60.7%）で最も低く、その差は約20ポイントと大きく開いている。

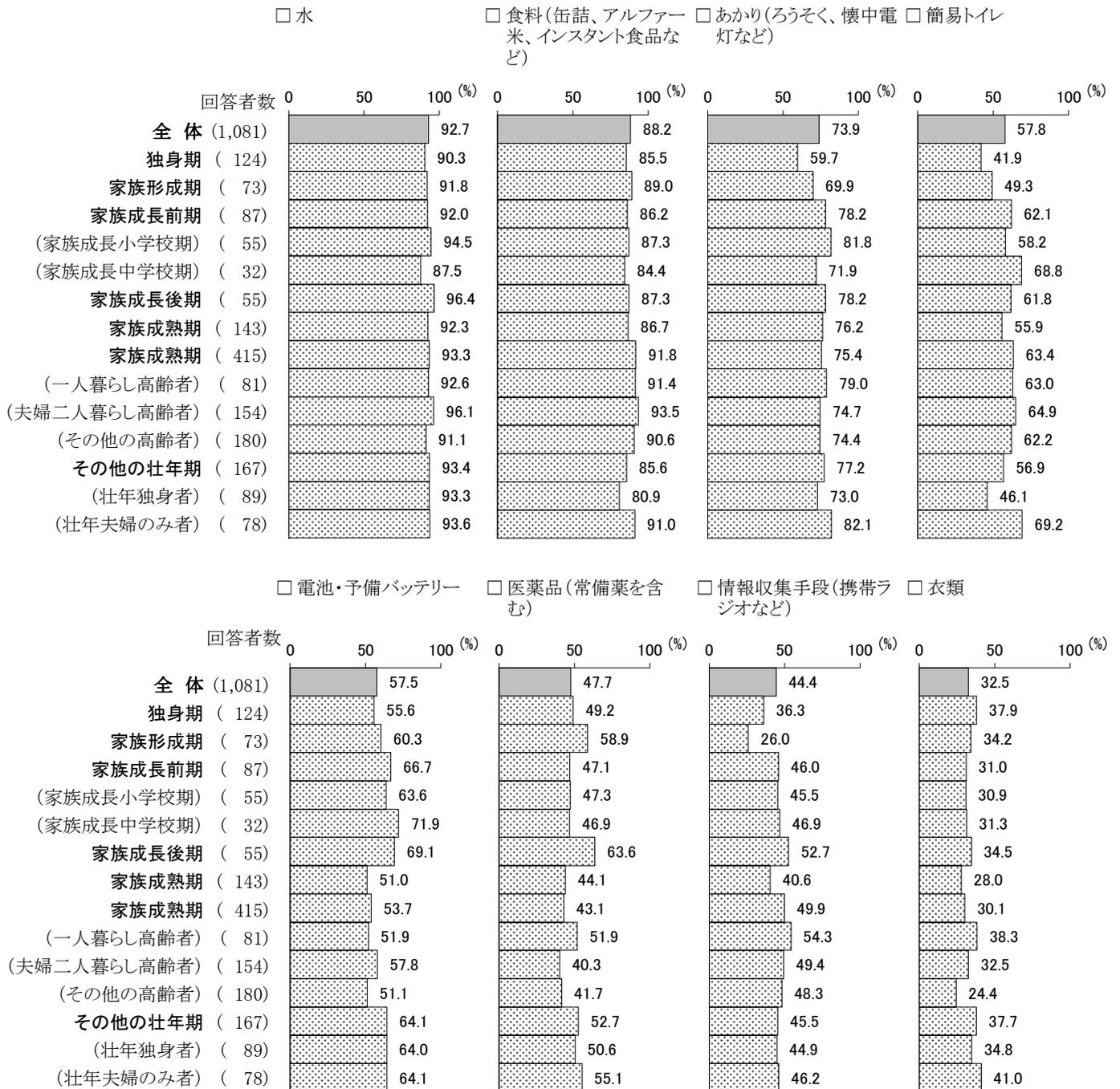
図2-2-2 性別、性・年代別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



ウ クロス集計・ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容（上位8項目）

ライフステージ別にみると、詳細区分を除いたところでは、「水」は〈家族成長後期〉（96.4%）、「食料（缶詰、アルファ米、インスタント食品など）」は〈家族成熟期〉（91.8%）、「あかり（ろうそく、懐中電灯など）」は〈家族成長前期〉と〈家族成長後期〉（各78.2%）でそれぞれ最も高くなっている。

図2-2-3 ライフステージ別／備蓄や防災用具、買い置きなどの内容／上位8項目



（3）備蓄量

問4-1で「1 水」、「2 食料」または「3 簡易トイレ」とお答えの方に

問4-1-1 あなたのご家庭では、「水」、「食料」、「簡易トイレ」の備蓄の量はどれくらいありますか。いずれかの備蓄がない場合は、その項目についての回答は不要です  
（〇はそれぞれ1つずつ）。

※ 水は大人1人1日3リットル、簡易トイレは1人1日5回分で計算。水、食料は日常の買い置きなどを含みます。

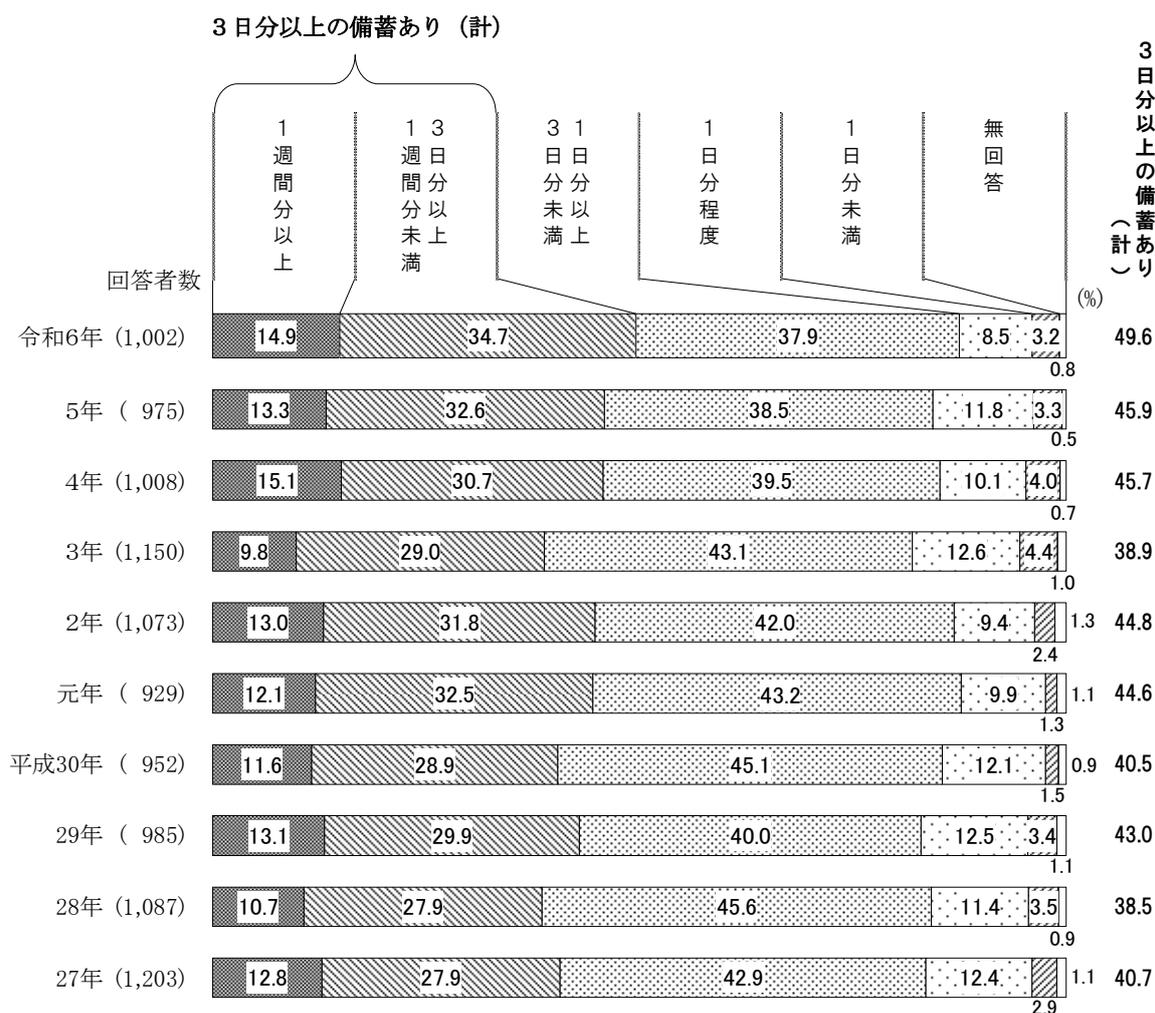
■【3日分以上の備蓄あり】は「水」が約5割、「食料」が4割台半ば、「簡易トイレ」が約4割

ア 単純集計・経年比較／備蓄量／水

（ア）「水」の備蓄量については「1日分以上3日分未満」が37.9%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（34.7%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（14.9%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は49.6%となっている。

（イ）水について前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は3.7ポイント増加しており、過去10年間で最も高い割合となっている。

図2-3-1-① 経年比較／備蓄量／水

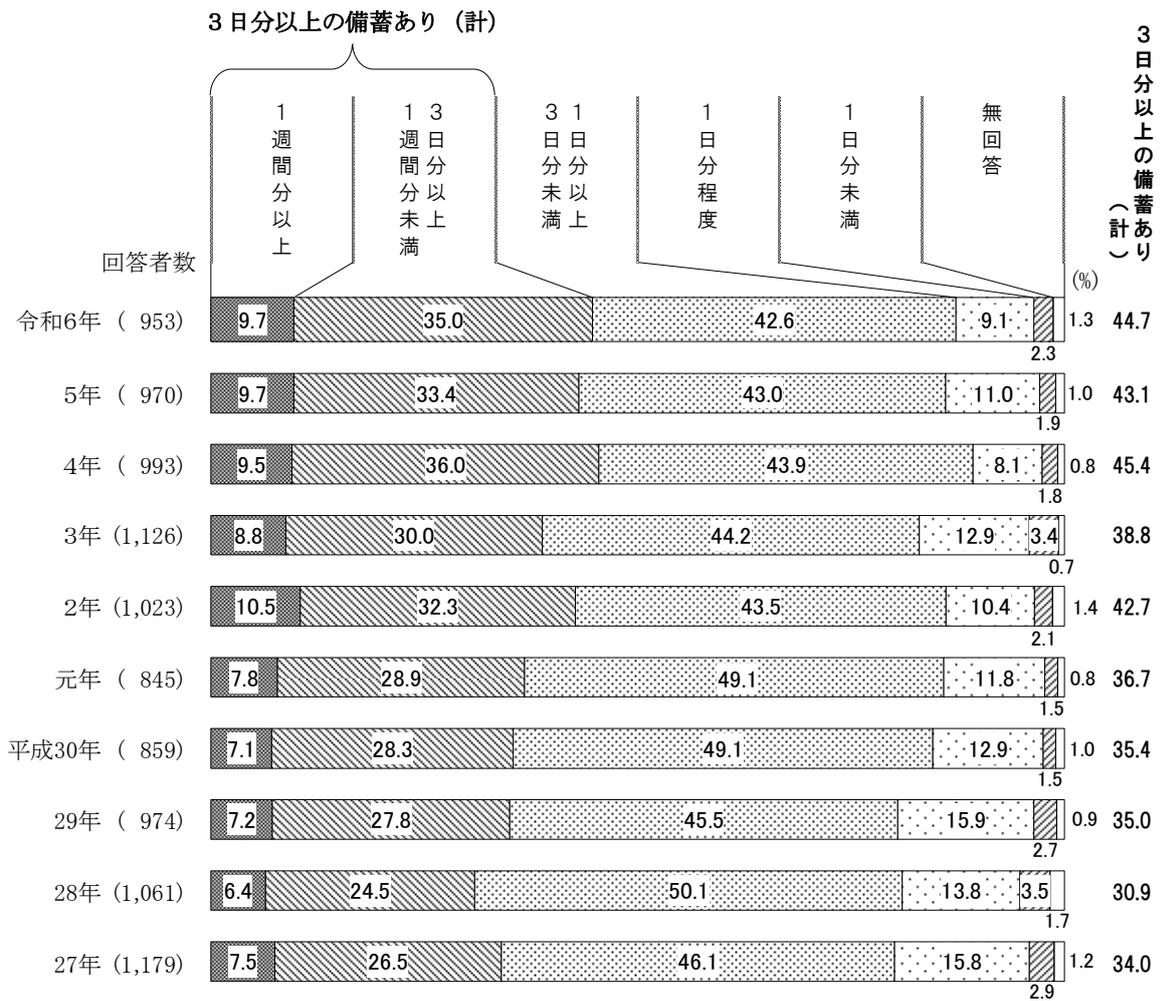


イ 単純集計・経年比較／備蓄量／食料

(ア) 「食料（缶詰、アルファーム米、インスタント食品など）」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が42.6%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」（35.0%）となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」（9.7%）を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は44.7%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】は微増しており、前々回の令和4年度調査（45.4%）に次いで高い割合となっている。

図2-3-1-② 経年比較／備蓄量／食料

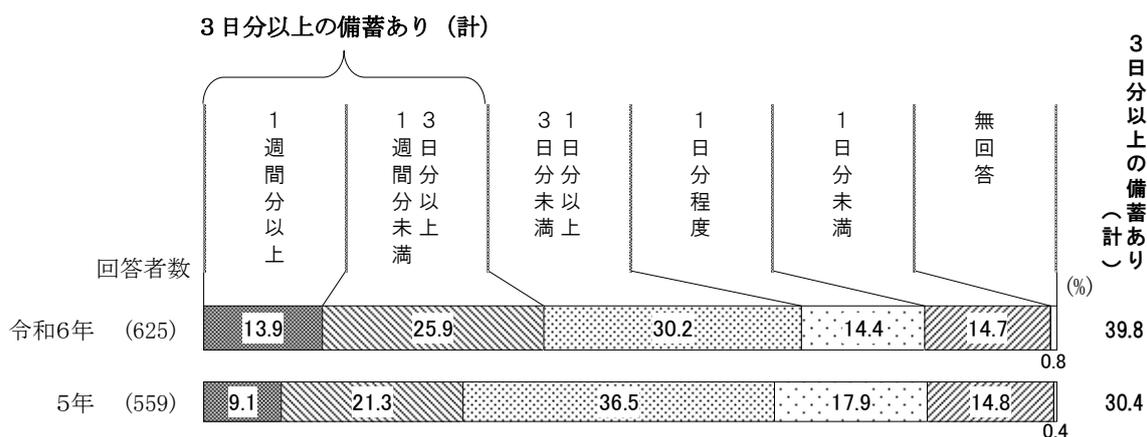


ウ 単純集計／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量については、「1日分以上3日分未満」が30.2%で最も高く、次いで「3日分以上1週間分未満」(25.9%)となっている。また、「3日分以上1週間分未満」と「1週間分以上」(13.9%)を合わせた【3日分以上の備蓄あり】は39.8%となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、【3日分以上の備蓄あり】(30.4%)は9.4ポイント増と大幅に増加している。

図2-3-1-③ 前回調査比較／備蓄量／簡易トイレ

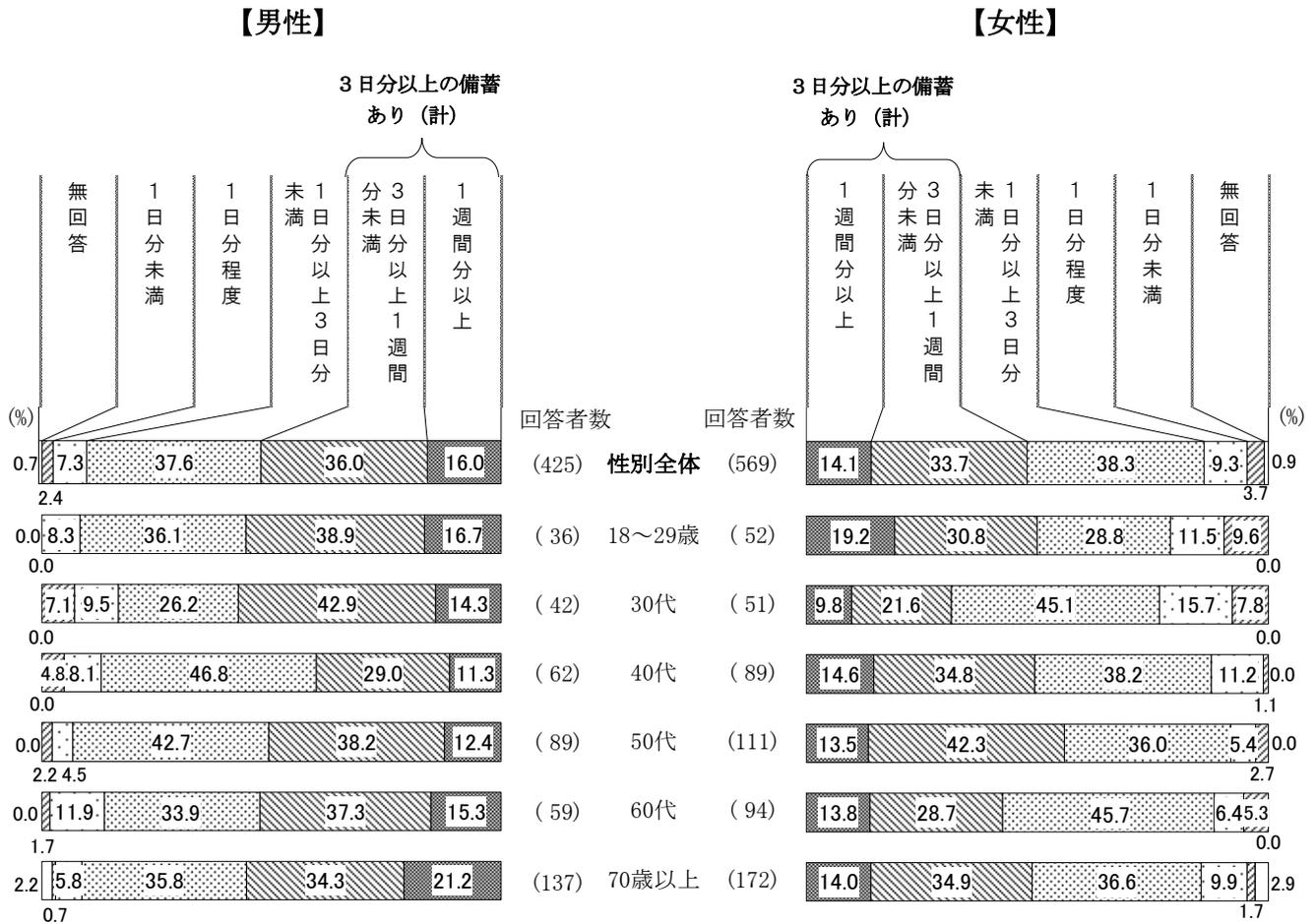


エ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／水

(ア) 「水」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（52.0%）の方が女性（47.8%）より4.2ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が57.1%で最も高く、次いで女性の50代（55.9%）となっている。逆に、女性の30代が31.4%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は女性の18～29歳が9.6%で最も高くなっている。

図2-3-2-① 性別、性・年代別／備蓄量／水

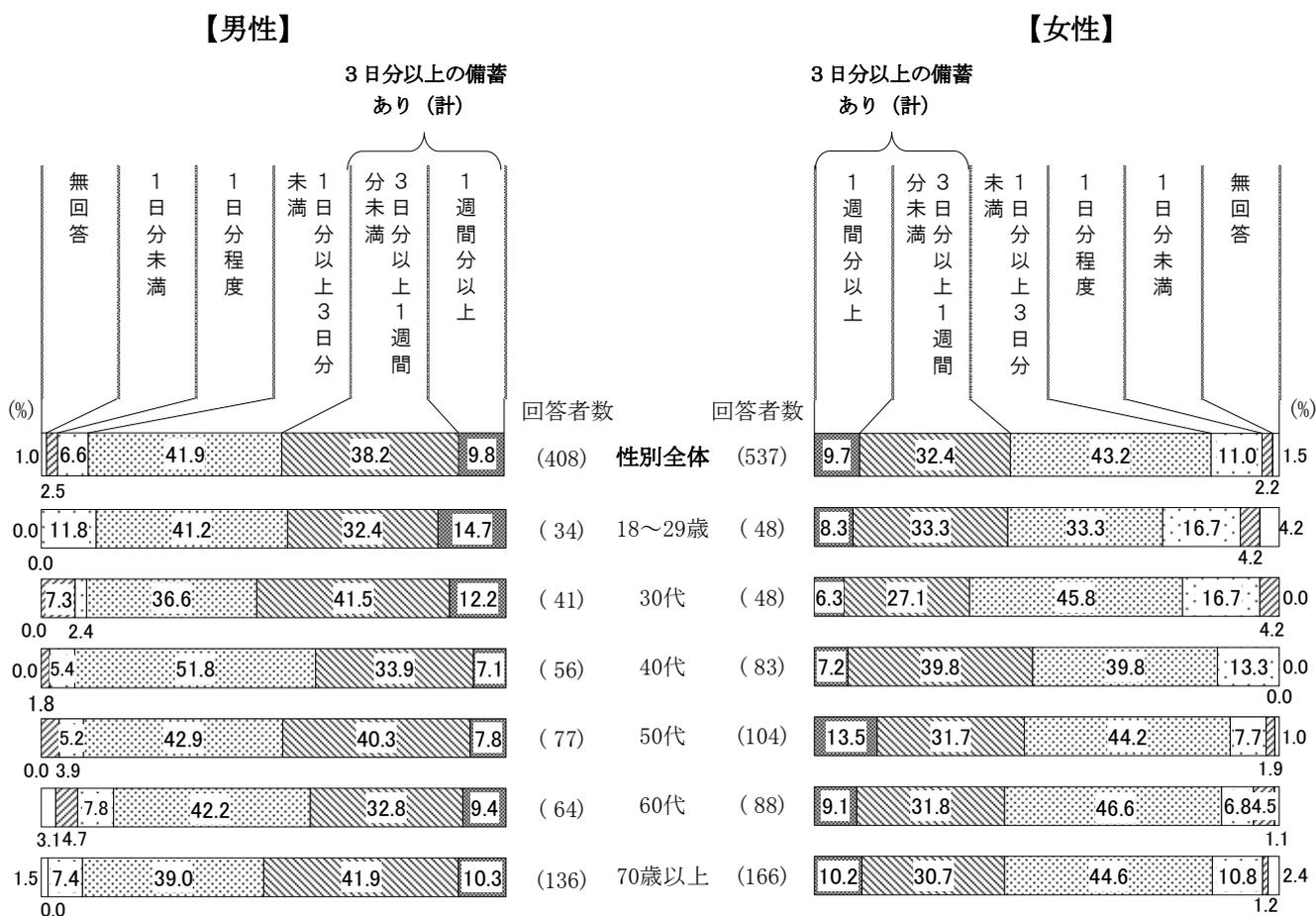


オ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／食料

(ア) 「食料」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は男性（48.0%）の方が女性（42.1%）より5.9ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、男性の30代が53.7%で最も高く、次いで男性の70歳以上（52.2%）となっている。逆に、女性の30代が33.3%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の30代が7.3%で最も高くなっている。

図2-3-2-② 性別、性・年代別／備蓄量／食料

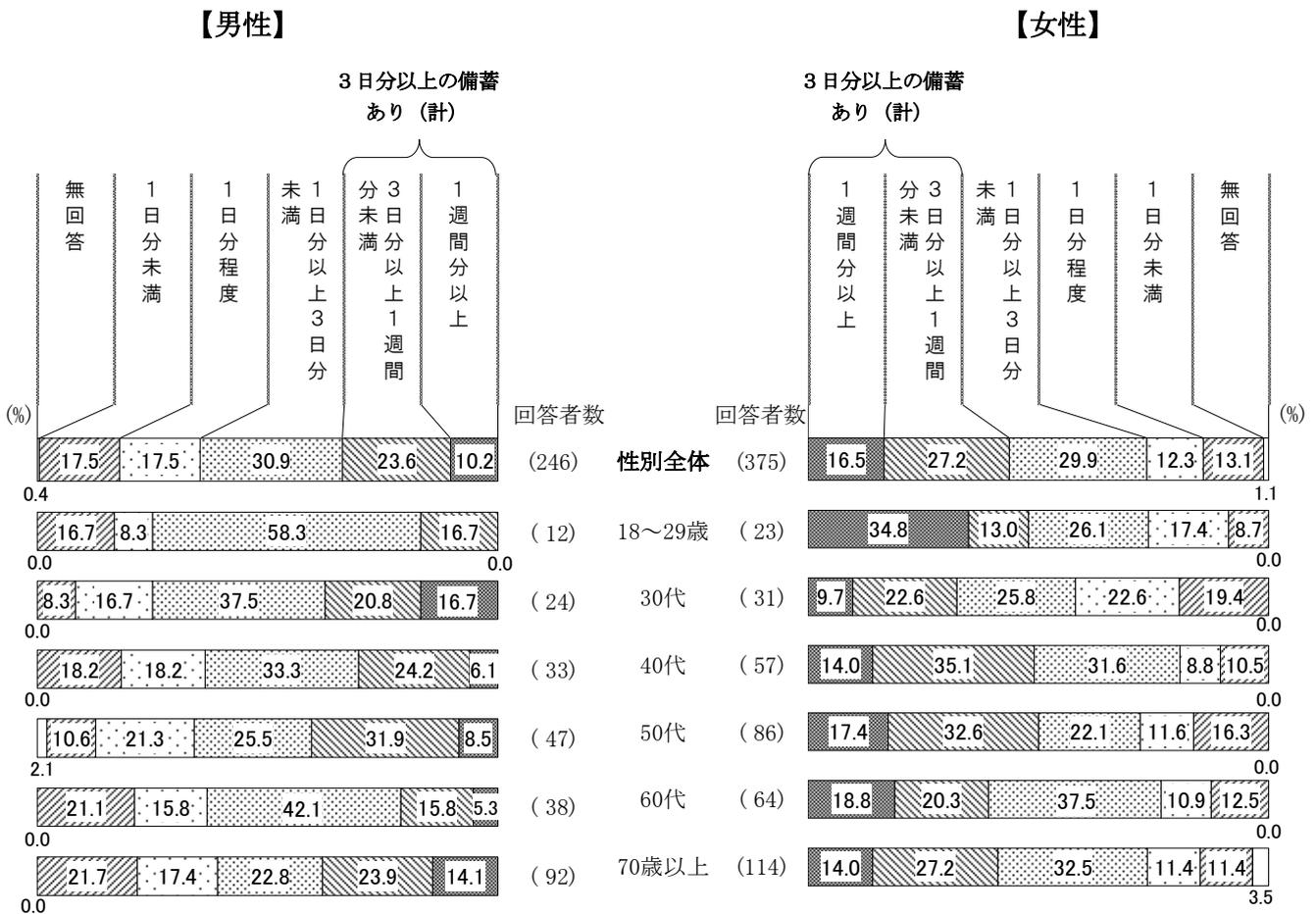


カ クロス集計・性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ

(ア) 「簡易トイレ」の備蓄量を性別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は女性(43.7%)の方が男性(33.7%)より10.0ポイント高くなっている。

(イ) 性・年代別で【3日分以上の備蓄あり】をみると、女性の50代が50.0%で最も高く、次いで女性の40代(49.1%)となっている。逆に、男性の18～29歳が16.7%で最も低くなっている。また、「1日分未満」は男性の70歳以上が21.7%で最も高くなっている。

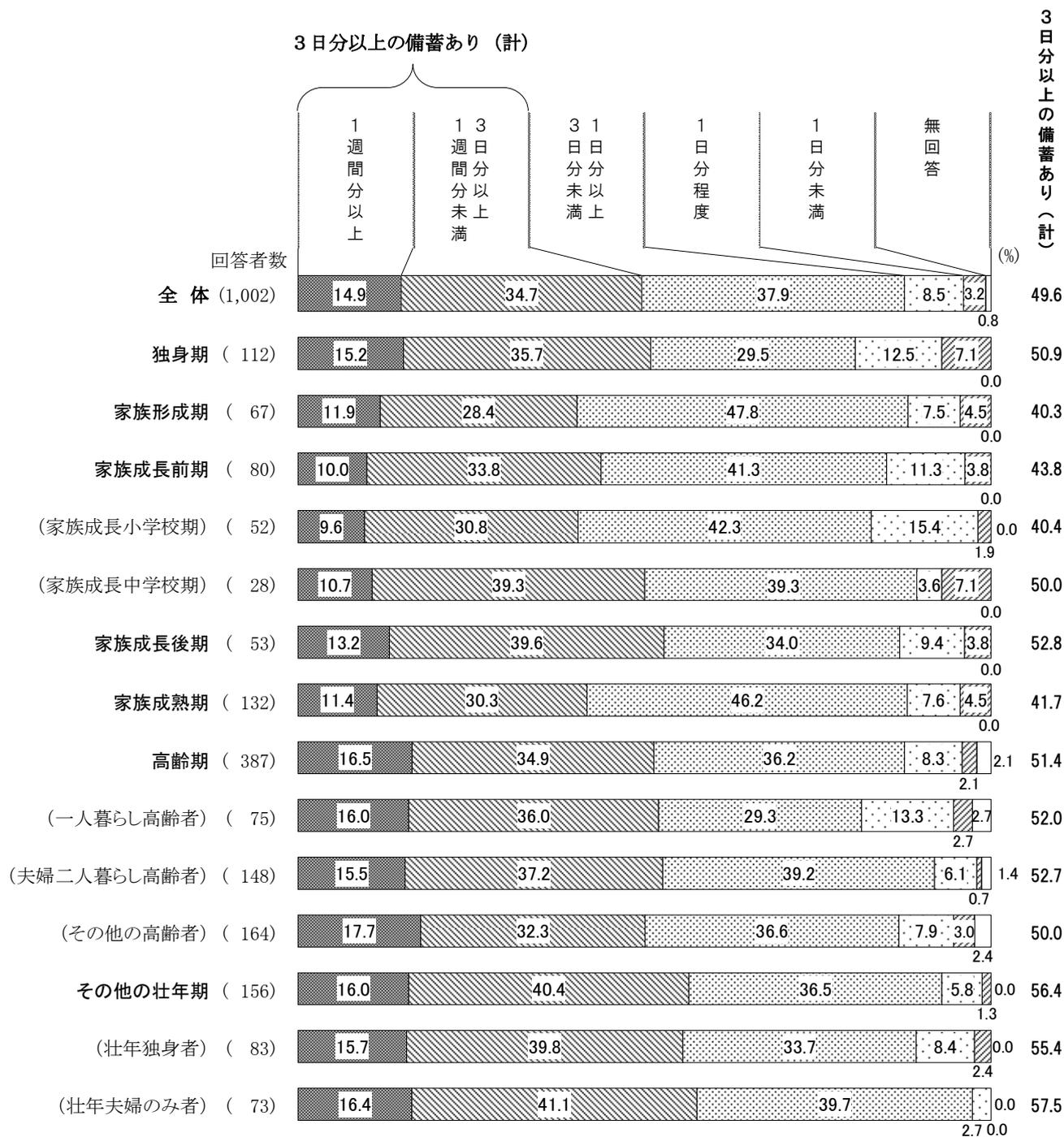
図2-3-2-③ 性別、性・年代別／備蓄量／簡易トイレ



キ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／水

「水」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が56.4%で最も高く、次いで、〈家族成長後期〉が52.8%となっている。逆に〈家族形成期〉が40.3%で最も低くなっている。

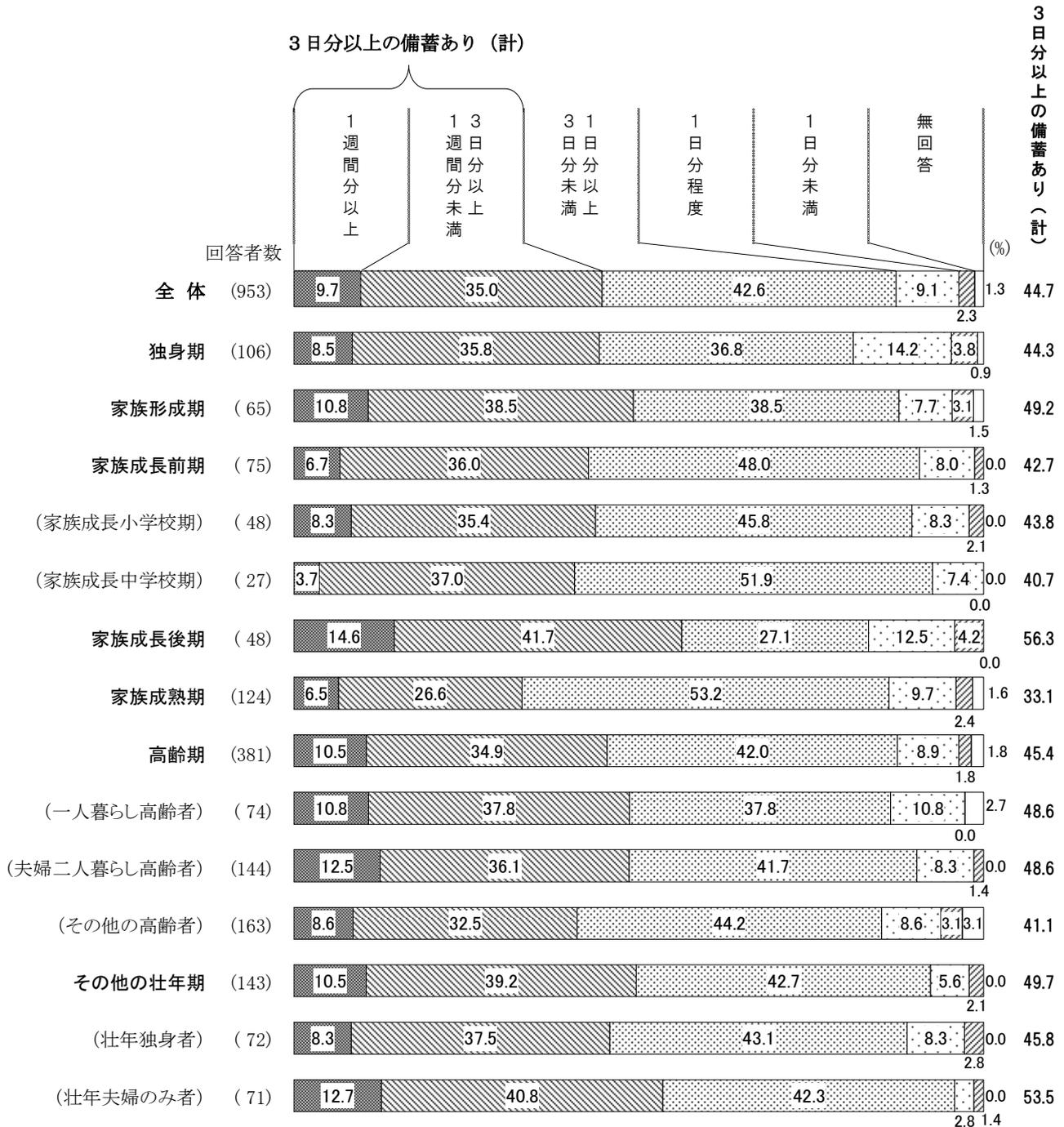
図2-3-3-① ライフステージ別／備蓄量／水



ク クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／食料

「食料」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈家族成長後期〉が56.3%で最も高く、次いで、〈その他の壮年期〉が49.7%となっている。逆に〈家族成熟期〉が33.1%で最も低くなっている。

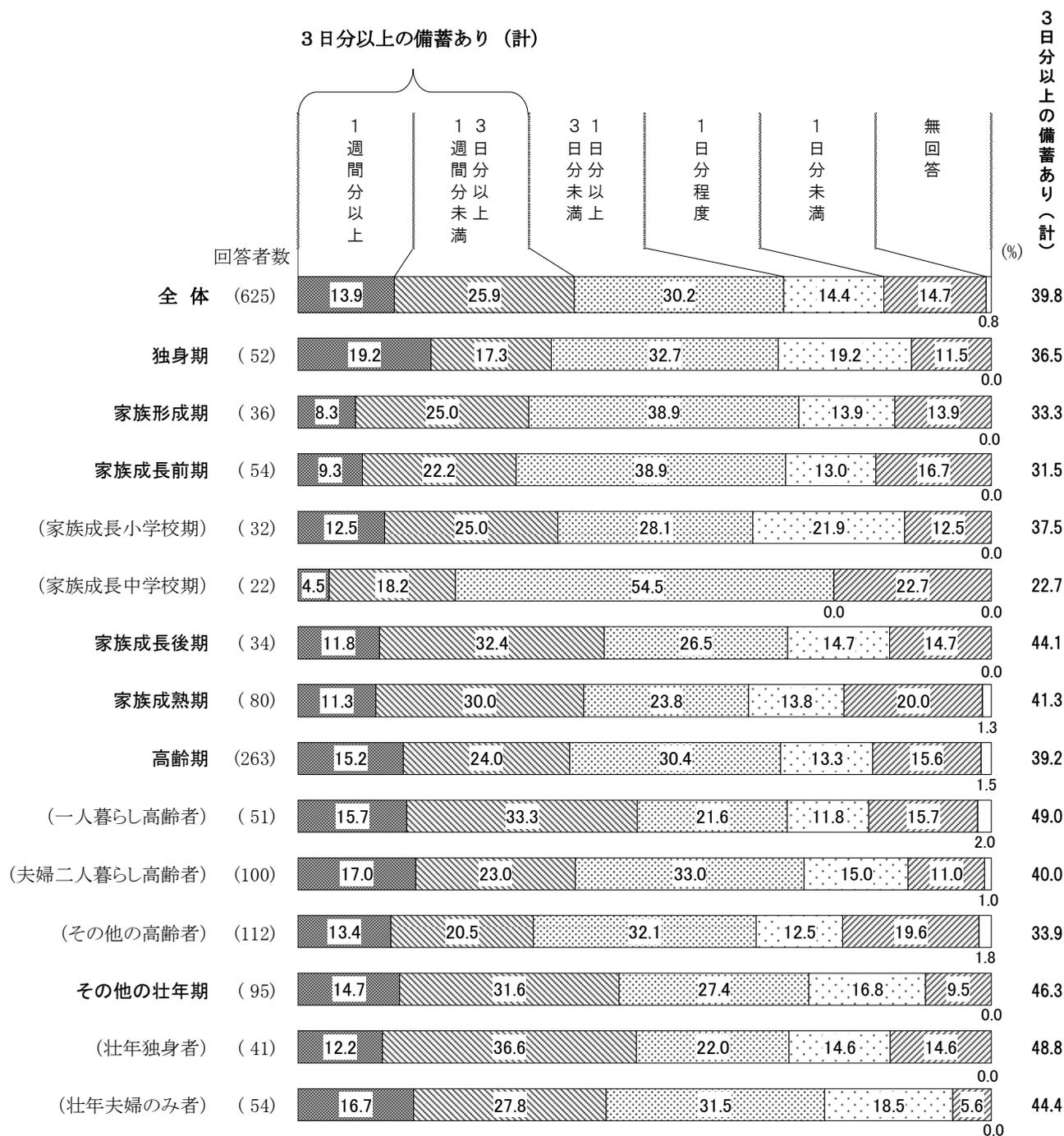
図2-3-3-② ライフステージ別／備蓄量／食料



ケ クロス集計・ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ

「簡易トイレ」の備蓄量をライフステージ別で見ると、【3日分以上の備蓄あり】は〈その他の壮年期〉が46.3%で最も高く、次いで、〈家族成長後期〉が44.1%となっている。逆に〈家族成長前期〉が31.5%で最も低くなっている。

図2-3-3-③ ライフステージ別／備蓄量／簡易トイレ



#### (4) 地域の3種の避難場所とその意味の認知

問5 大震災などで大規模な災害が発生した場合に、危険から身を守る、以下のア～ウのあなたの地域の避難場所とその意味を知っていますか（○はそれぞれ1つつ）。

■「知っている」は【避難場所】の〈場所〉が最高（36.7%）、【第一次避難所】の〈意味〉が最低（18.4%）

ア【一時集合場所】とは、大地震など、災害が発生した場合に、避難場所（区内に32カ所）や避難所（区内の小・中学校や福祉施設）に集団で避難するために、町会・自治会単位で一時的に集まる場所です。

イ【避難場所】とは、大地震などで延焼火災が発生した場合、大火から身を守るために避難する場所です。

ウ【第一次避難所】とは、自宅が倒壊・焼失等で生活が出来ない場合、生活する場所です。第一次避難所は、区立の小中学校、都立高校などが指定されており、災害発生時には、避難所近隣の町会・自治会を中心とした避難所運営本部により開設されます。

#### ア 単純集計・経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知

- (ア) 地域の3種の避難場所の場所を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が36.7%で最も高く、「ア 一時集合場所」(36.3%)、「ウ 第一次避難所」(24.3%)の順となっている。
- (イ) 地域の3種の避難場所の意味を「知っている」の割合は、「イ 避難場所」が26.5%で最も高く、「ア 一時集合場所」(24.4%)、「ウ 第一次避難所」(18.4%)の順となっている。
- (ウ) いずれの項目も「意味」より「場所」の認知割合が高くなっており、その差が大きい順に、「ア 一時集合場所」(11.9ポイント)、「イ 避難場所」(10.2ポイント)、「ウ 第一次避難所」(5.9ポイント)となっている。
- (エ) 前回調査と比較すると、〈場所〉〈意味〉ともに「知っている」が微増しているものの、割合としては特に大きな違いではない。

図2-4-1-① 経年比較/地域の3種の避難場所とその意味の認知

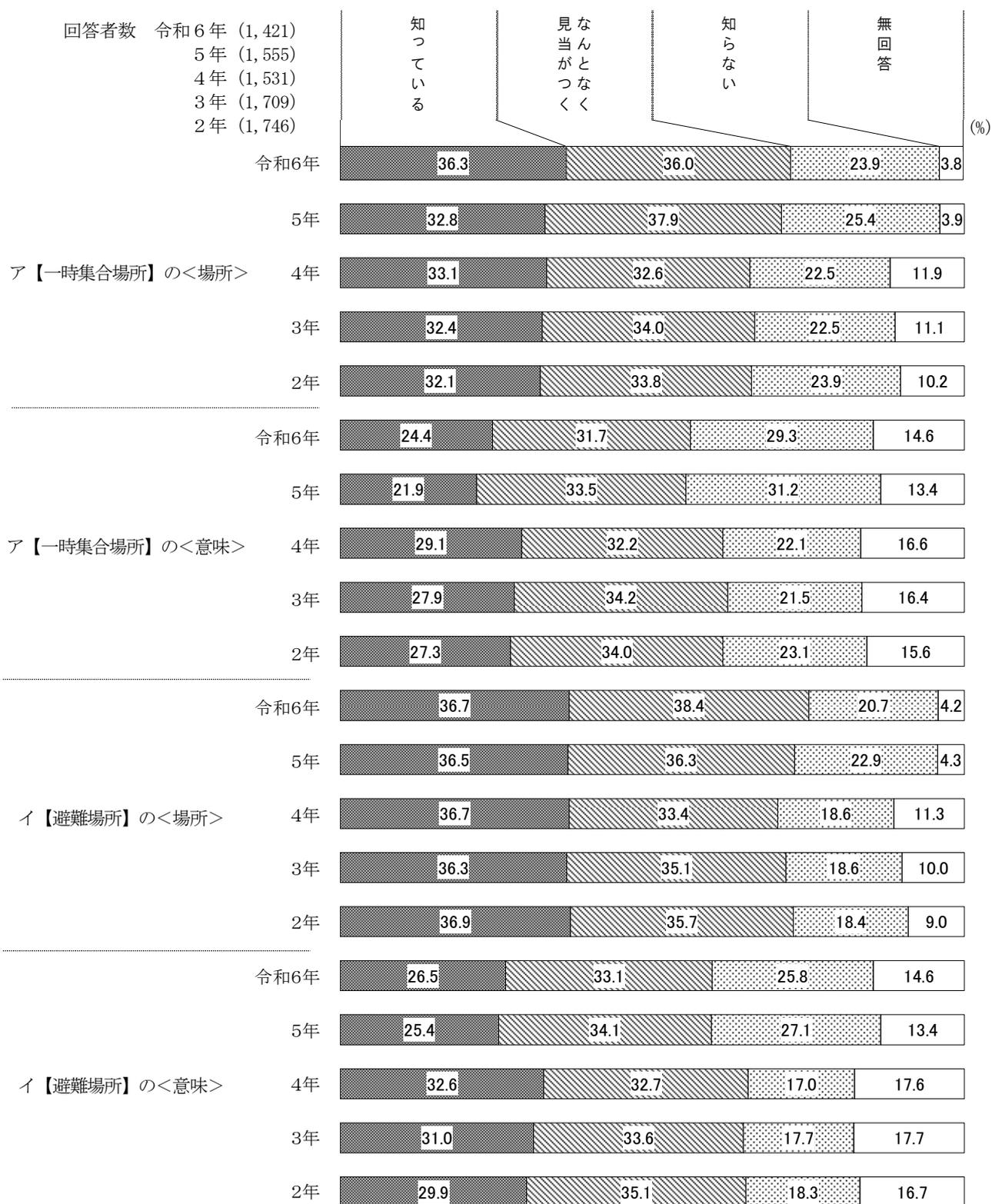
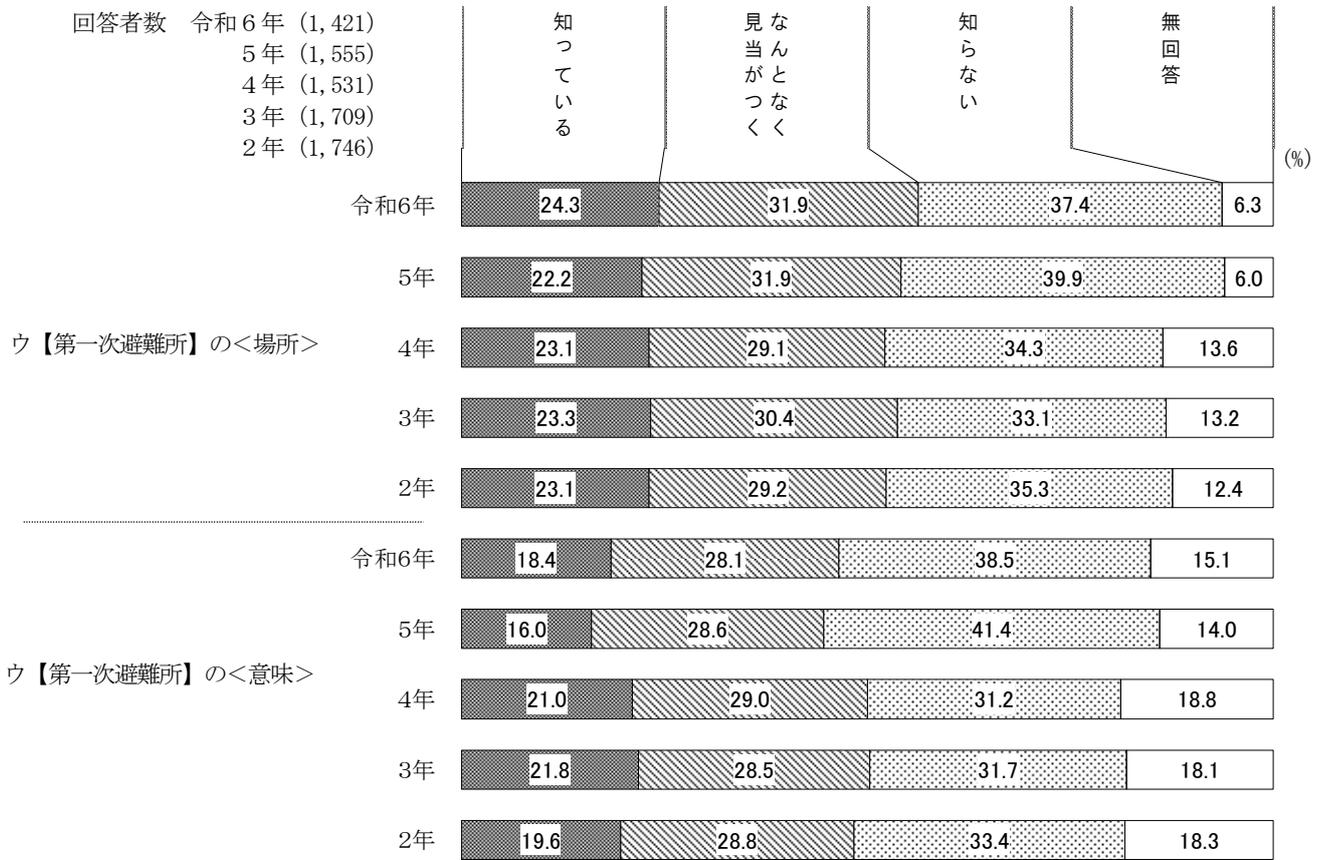


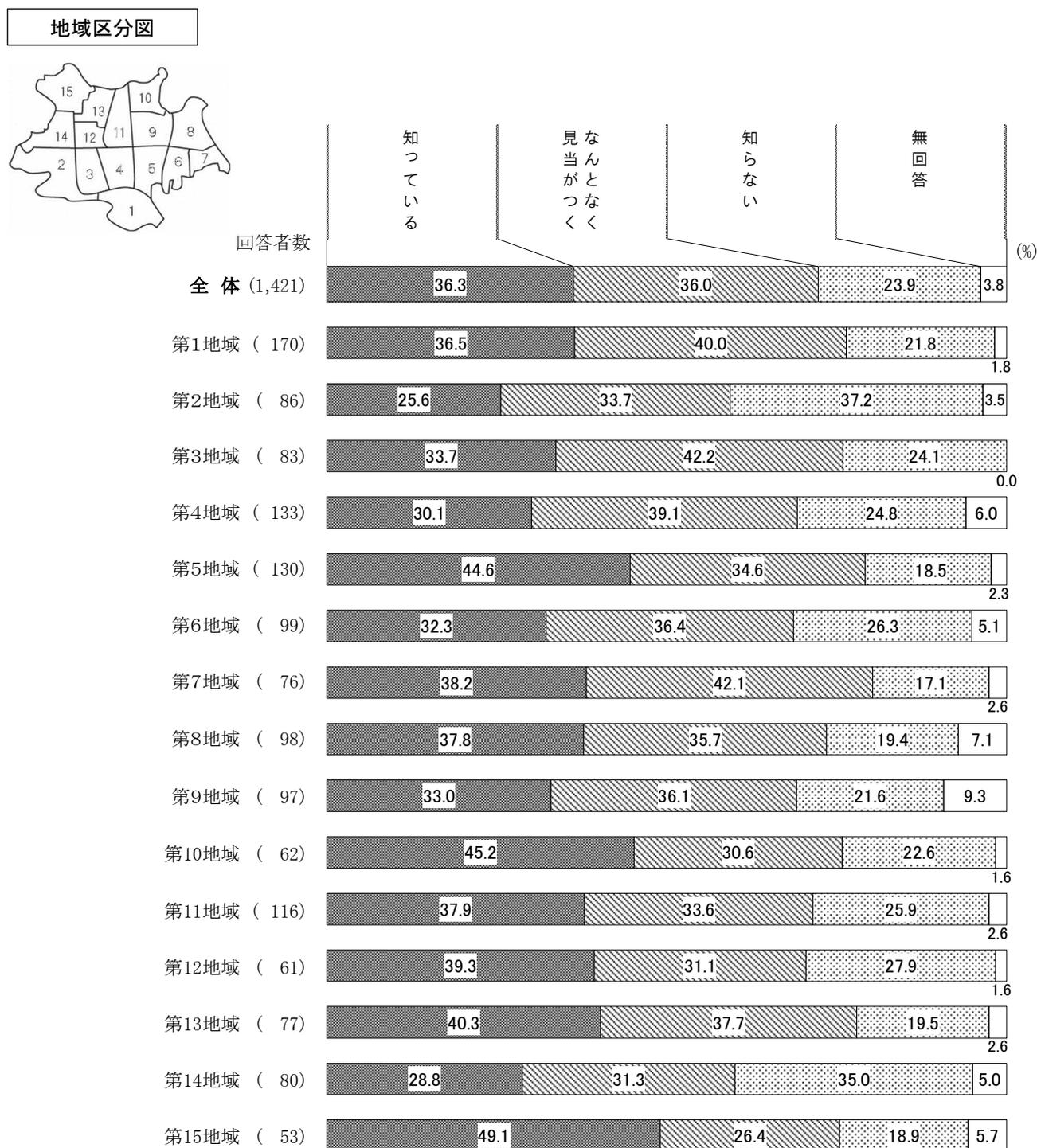
図2-4-1-② 経年比較／地域の3種の避難場所とその意味の認知



イ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が49.1%で最も高く、次いで、第10地域（45.2%）となっている。一方、第2地域が25.6%で最も低く、次いで第14地域（28.8%）となっている。

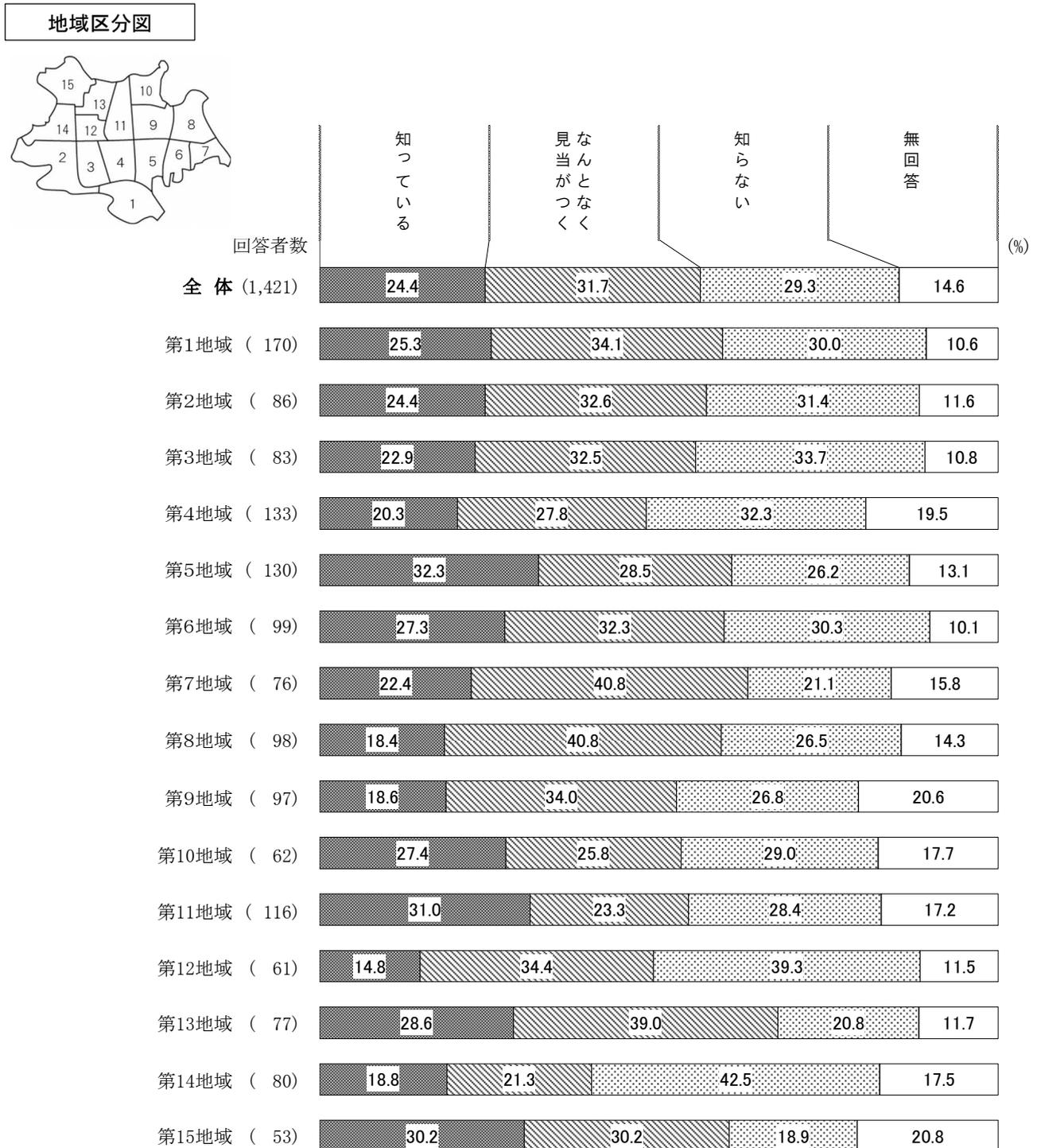
図2-4-2-① 地域別／「ア【一時集合場所】の〈場所〉」の認知



ウ クロス集計・地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知

「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第5地域が32.3%で最も高く、次いで第11地域（31.0%）となっている。一方、第12地域が14.8%で最も低く、次いで第8地域（18.4%）となっている。

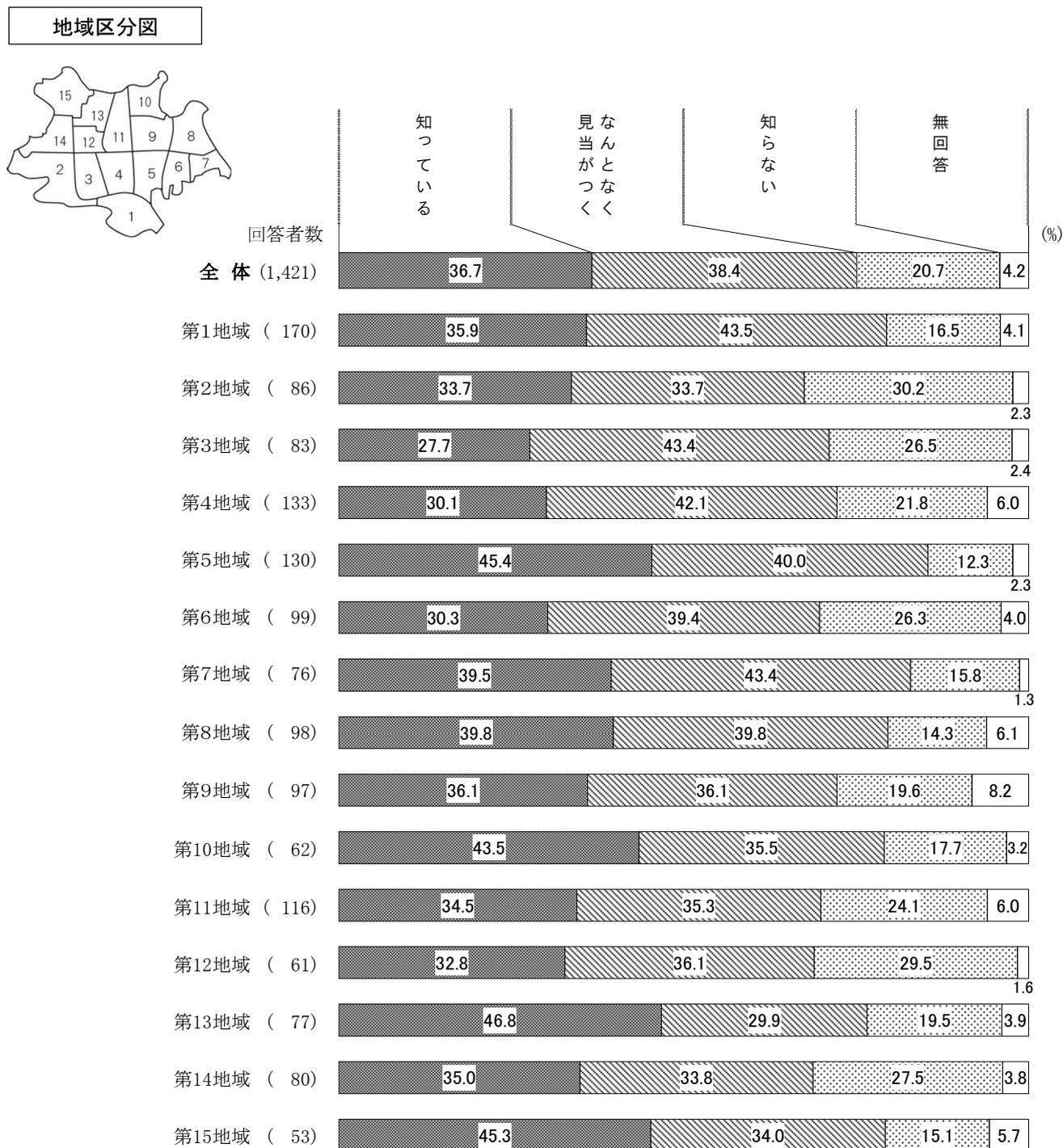
図2-4-2-② 地域別／「ア【一時集合場所】の〈意味〉」の認知



エ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知

「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第13地域が46.8%で最も高く、次いで第5地域（45.4%）となっている。一方、第3地域が27.7%で最も低く、次いで第4地域（30.1%）となっている。

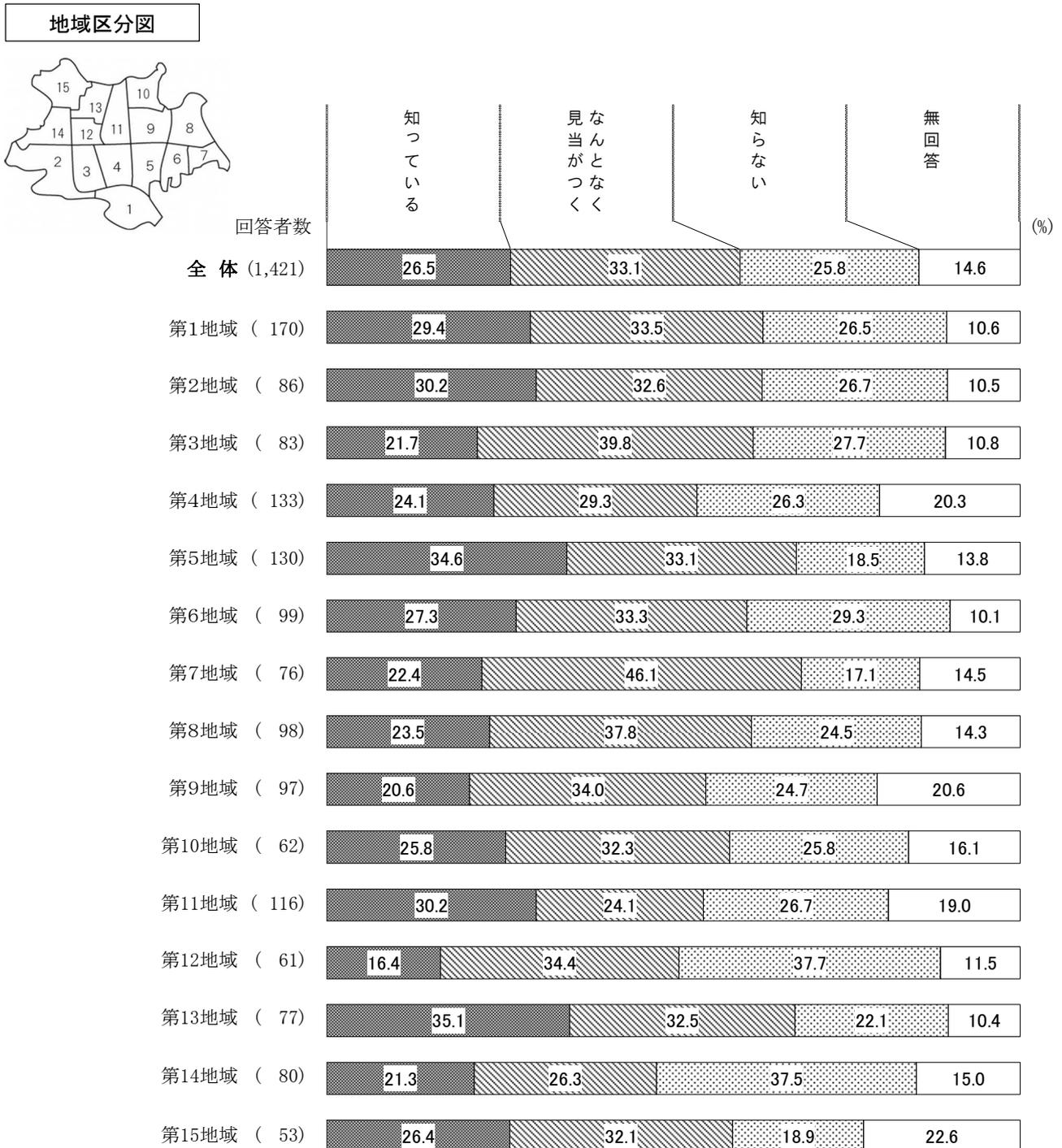
図2-4-2-③ 地域別／「イ【避難場所】の〈場所〉」の認知



オ クロス集計・地域別／「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知

「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知状況を地域別でみると、「知っている」は第13地域が35.1%で最も高く、次いで第5地域（34.6%）となっている。一方、第12地域が16.4%で最も低く、次いで第9地域（20.6%）となっている。

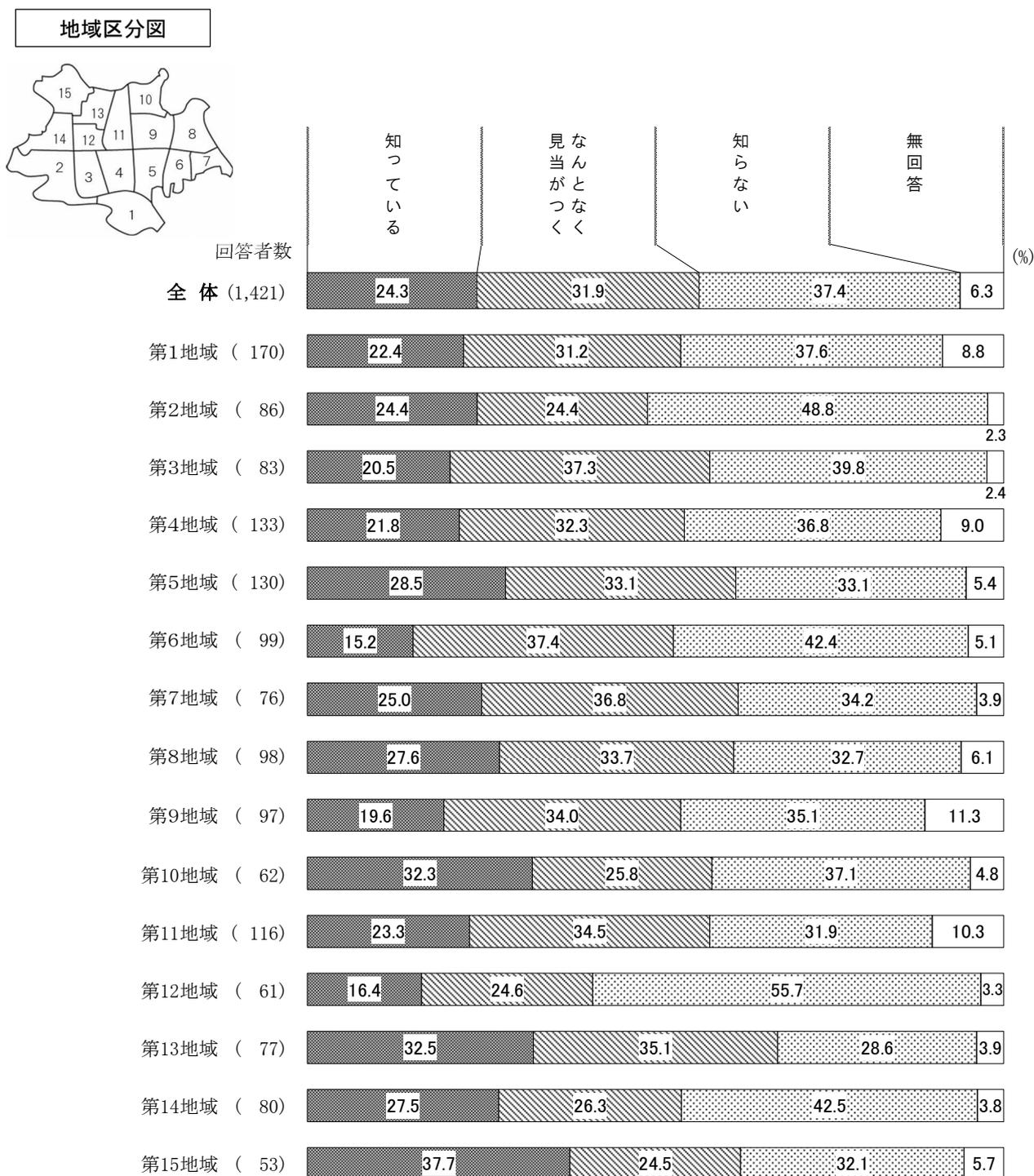
図2-4-2-④ 地域別／「イ【避難場所】の〈意味〉」の認知



カ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第15地域が37.7%と最も高く、次いで第13地域（32.5%）となっている。一方、第6地域が15.2%で最も低く、次いで第12地域（16.4%）となっている。

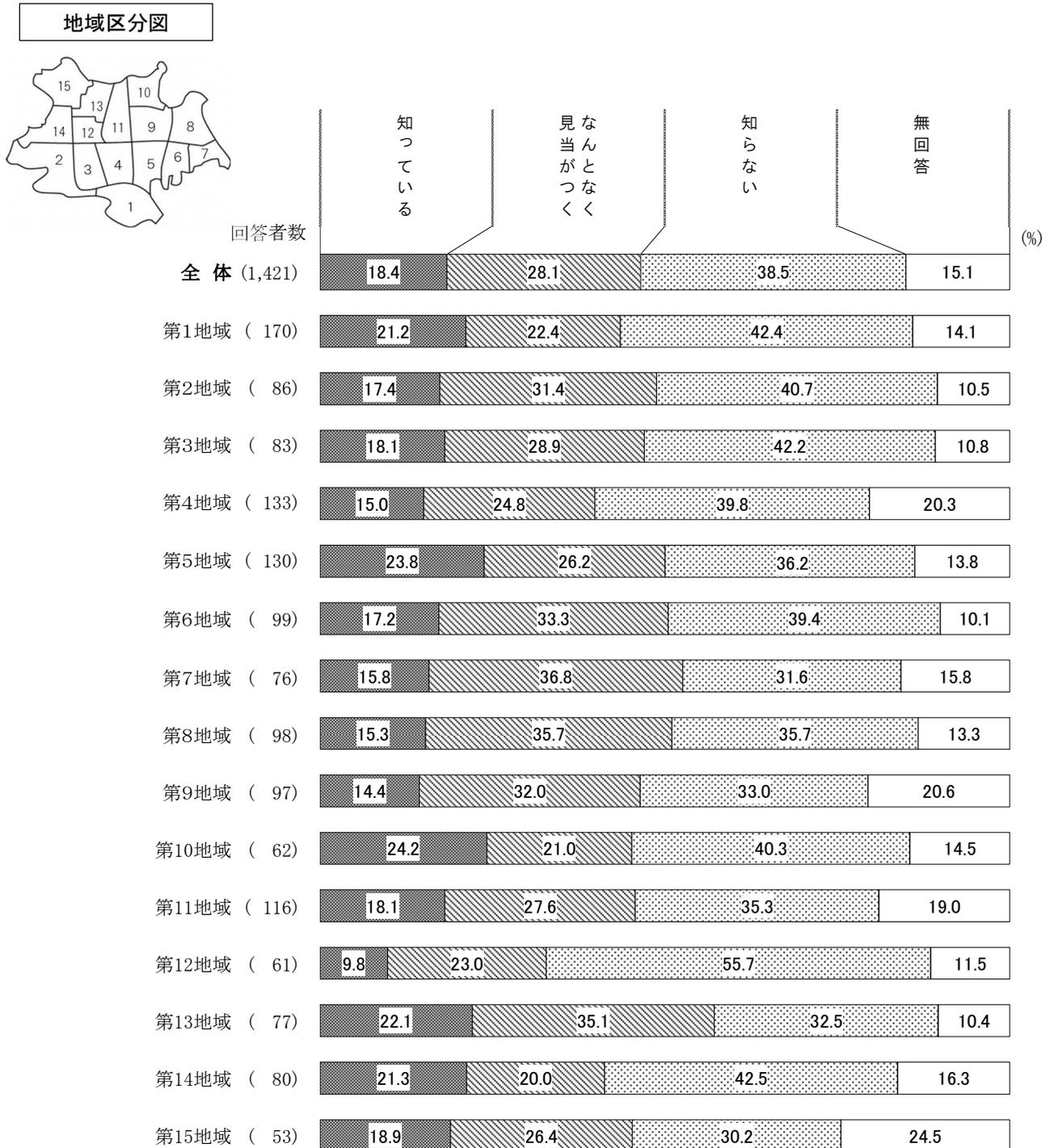
図2-4-2-⑤ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈場所〉」の認知



キ クロス集計・地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知

「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知状況を地域別で見ると、「知っている」は第10地域が24.2%で最も高く、次いで第5地域（23.8%）となっている。一方、第12地域が9.8%で最も低く、次いで第9地域（14.4%）となっている。

図2-4-2-⑥ 地域別／「ウ【第一次避難所】の〈意味〉」の認知



(5) 大規模災害時の避難生活場所

問6 大規模な災害が発生し家屋の倒壊などにより自宅で生活できない場合、どこで生活しようと考えていますか（○は1つだけ）。

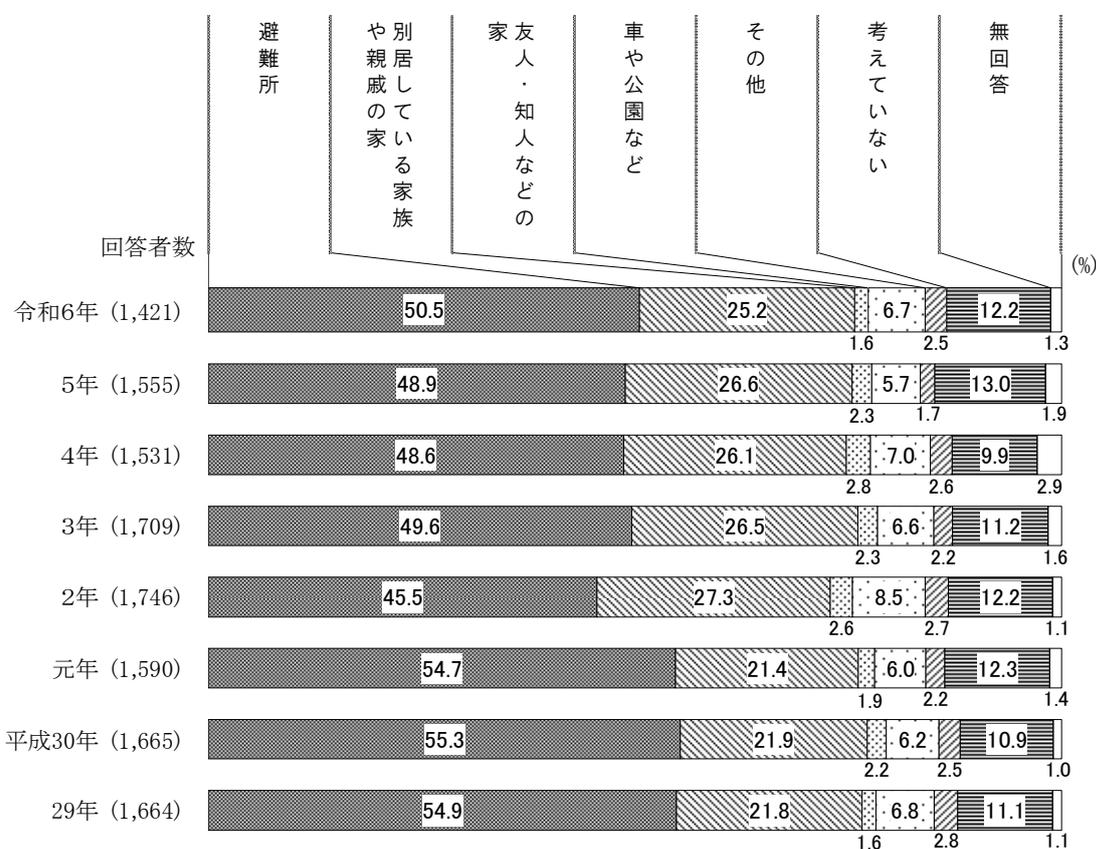
■「避難所」が5割で最も高く、他の項目を含めてこの4年間に割合の変化はない

ア 単純集計・経年比較／大規模災害時の避難生活場所

(ア) 大規模災害時に避難生活を送る場所としては、「避難所」が50.5%で最も高く、次いで「別居している家族や親戚の家」(25.2%)となっている。

(イ) 前回調査と比較すると、特に大きな違いはみられない。

図2-5-1 経年比較／大規模災害時の避難生活場所



イ クロス集計・地域別／大規模災害時の避難生活場所

地域別でみると、「避難所」は第7地域（56.6%）で最も高く、次いで第14地域（55.0%）となっている。「別居している家族や親戚の家」は第1地域（35.3%）、「車や公園など」は第8地域（14.3%）で最も高くなっている。一方、「考えていない」は第3地域（20.5%）で最も高く、第1地域（5.3%）で最も低くなっている。

図2-5-2 地域別／大規模災害時の避難生活場所

